

/etc/hostname

自分のホスト名だけが書かれたファイル。

/etc/resolv.conf

他の UNIX と同じ。

/etc/network/interfaces

その他の設定はすべてこのファイルに書けるので、見通しがいい。

```
auto lo
iface lo inet loopback

auto eth0
allow-hotplug eth0
iface eth0 inet static
    address 192.168.1.100
    netmask 255.255.255.0
    gateway 192.168.1.1

auto eth1
allow-hotplug eth1
iface eth1 inet dhcp
```

こんな感じ。

auto 指定が無いと、OS 起動時に有効にならない。

また少なくとも lenny 以降では、allow-hotplug 指定が無いと、ifup や /etc/init.d/networking restart でインターフェースの起動がなされないなので、付けておく。

起動時にルーティング・テーブルにエントリを追加できる。

```
auto eth0
allow-hotplug eth0
iface eth0 inet static
    address 192.168.1.100
    netmask 255.255.255.0
    gateway 192.168.1.1
    up route add -net 172.16.1.0 netmask 255.255.255.0 gw 192.168.1.254
```

up コマンドの後ろに、route add をそのまま書くだけ。

その他オプションについては、

\$ man 5 interfaces

2 枚以上の NIC でパケットをフォワードするには。

```
# sysctl -w net.ipv4.ip_forward=1
```

起動時にこれを自動的に行うためには、`/etc/sysctl.conf` に

```
net.ipv4.ip_forward = 1
```

と書いておく。

または、`/etc/network/interfaces` のオプションで、

```
up sysctl net.ipv4.ip_forward=1
```

としておけばよい。

## NAT

Debian etch での iptables の設定。eth1 が外、eth0 が内とする。  
とりあず、NAT だけなので、

```
iptables -F
iptables -t nat -F
iptables -t nat -A POSTROUTING -o eth1 -j MASQUERADE
```

で、正常に動作することを確認。

`iptables-save > /etc/iptables.conf`

で、設定を保存して、`/etc/network/interfaces` に pre-up を追加。

```
auto eth1
iface eth1 inet dhcp

auto eth0
iface eth0 inet static
    address 192.168.0.254
    netmask 255.255.255.0
    pre-up iptables-restore < /etc/iptables.conf
```

## NetworkManager の削除

NetworkManager は、上記のように `/etc/network/interfaces` にいろいろ細工をしたい場合に設定が競合して反映されなかったりする。

NetworkManager は、あくまでクライアント PC 向けの単純なネットワーク設定しかできないものと考えた方がよい。

サーバー用途では、速攻で remove して `/etc/resolv.conf` と `/etc/network/interfaces` を手動で設定しなおすのが吉と考える。

```
# apt-get autoremove --purge network-manager
```